

蒲生干潟の植物②6

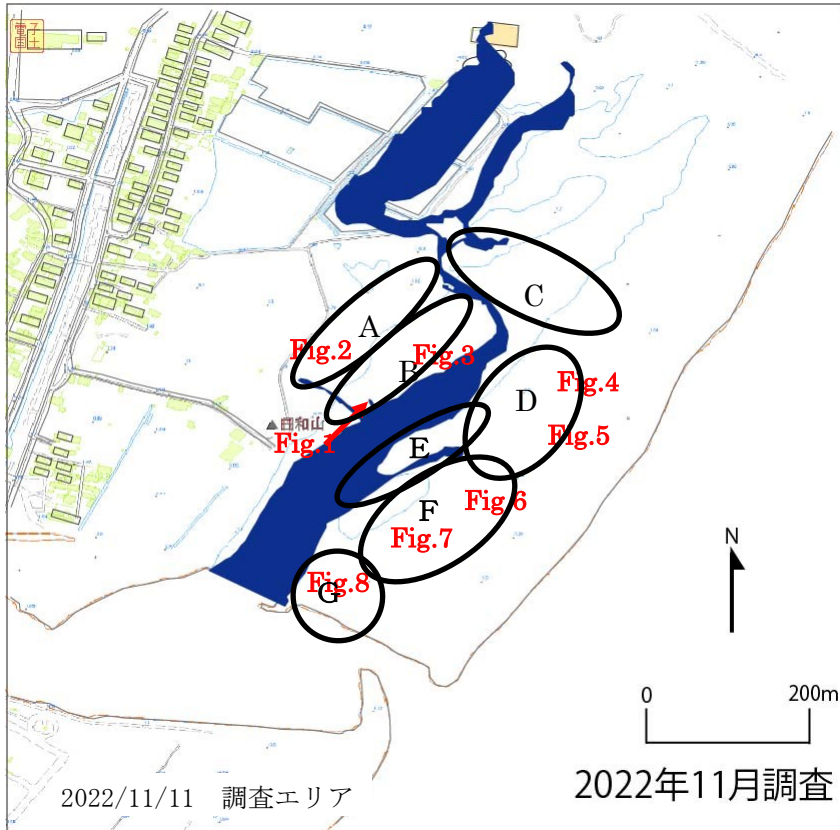
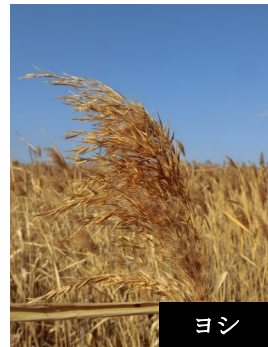
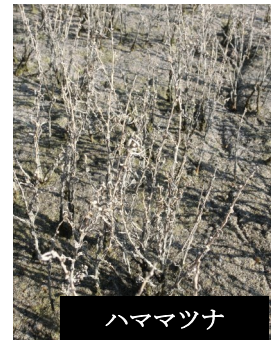


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



ヨシ

Fig.2 エリアAで撮影



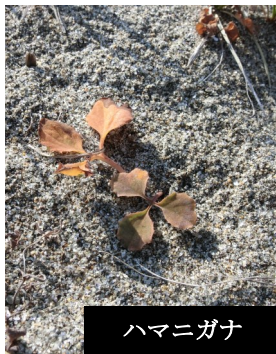
ハママツナ

Fig.3 エリアBで撮影



ハマニンニクの根元

Fig.4 エリアDで撮影



ハマニガナ

Fig.5 エリアDで撮影



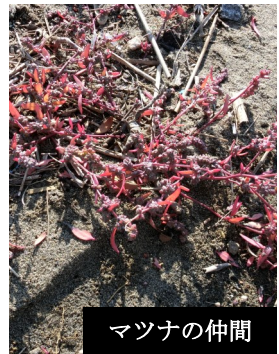
ハマボウフウ

Fig.6 エリアFで撮影



ハマヒルガオ
ハマエンドウ

Fig.7 エリアFで撮影



マツナの仲間

Fig.8 エリアGで撮影

調査日時：2022年11月11日（木）9:30～11:00，天気：快晴

干潮前の調査で、干潮に向かって水が引いている最中であつた。定点観測では、全面茶色となり、緑は見られない。枯死したハママツナが流失し、砂地の露出が目立つようになった（Fig.1）。エリアAのヨシは、穂の茶色が濃くなり、茎もほとんどが茶色になっていた（Fig.2）。エリアBのハママツナは、先月と同様細く立ち枯れた状態で、抜けてしまった個体も見られた（Fig.3）。エリアDでは、ハマニンニクの根元の葉が目立つようになった（Fig.4）。先月まで確認できたハマニガナの花はなくなり、葉も茶色になっていた（Fig.5）。エリアFでは、ハマボウフウの葉が大きく成長していたが徐々に枯れ始めている葉もあった（Fig.6）。また、エリアFで群生しているハマヒルガオは、ようやく黄色くなり始めた。同じエリアに群生するハマエンドウは、まだ緑色の葉を広げていた（Fig.7）。エリアGの汀線沿いに見られたオカヒジキも徐々に枯れ始めている。オカヒジキ群落の中に1個体のみマツナの仲間と思われる個体が見られた（Fig.8）。茎、葉ともに赤く色づいており、遠目でも目立っていた。群生はしておらず、昨年度は確認できなかった個体である。来年以降の変化を注視したい。

（宮崎佳彦）